

中日 9/12

# 難病患者の支援充実を

補助金撤廃  
活動が困難

## 連絡協が県に要望書



県難病連絡協議会は十一日、県の来年度社会福祉施策に対する要望書を嘉田由紀子知事あてに提出した。協議会員が県庁を訪れ、難病患者の医療施策の充実や生活支援を訴えた。

県難病連の森幸子理事あての要望書を提出する県難病連の森幸子理事長申。県庁で

事長ら十人が、連藤寿・県健康福祉部長に要望書を提出。森さんは「難病患者が滋賀に住み続けて良かったと思えるよう、施策の充実を」と求めた。要望書は、難病対策基本計画の策定を求め、要望など七項目と、協議会に加盟する各難病患者団体の要望を記載。森さんらは要望の中

から、重症難病患者の在宅療養を支える介護者が定期的な休息できよう、患者の一時入院を受け入れる環境づくり▽難病患者の窓口になっている保健所の維持▽難病連や難病団体への活動支援の三項目を強調した。森さんは「難病患者は社会から孤立しやすく、自分は生きていていいのだろうかと思える人も多い。患者たちが希望を持って暮らせる社会になってほしい」と話した。

県難病連には十二団体二千二百八十人の会員が所属。県が財政難小中学生対象に入院医療費無料

を理由に二〇〇六年度から補助金を打ち切ったため、会費や寄付金だけによる活動の継続が難しくなっていると

いう。(林勝)

来月分から草津市  
草津市は十月診療分から、市内の小中学生を対象に入院医療費の自己負担分を助成する。小中学生の入院医療費は無料となる。助成するのは入院時の食事代や差額ベッド代などを除く費用。制